

2018 年度 センター試験 地学基礎（本試験） 分析

全体概況

試験時間 2科目で60分

大問数・解答数	大問数：3題	解答数：15問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評 全体的に教科書に沿った標準レベルの問題である。昨年度に比べ、大問数は1題減少したものの、解答数に変化はなかった。随筆を用いて考察させる問題も見られたが、標準レベルの問題が中心で取り組み易かったと思われる。したがって地学基礎に費やす時間を30分と仮定すれば時間内で十分に対応できたことから、難易度の変化なしとした。総体的に身近な現象を科学的な視点でとらえることを意識している生徒には、高得点が狙えた出題であった。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	地球	27点	「地球」の各分野に関してまんべんなく出題されている。昨年度同様、図やグラフの読み取りを必要とするものであるが、標準的問題で、全体的に取り組みやすかったであろう。日ごろから教科書を意識して学習している生徒は高得点が狙えたであろう。
第2問	大気と海洋	13点	科学者の随筆を用いた日常の科学から気象現象の仕組みを考えさせる問題であった。身近な題材を気象現象としてとらえることに苦労した生徒もいたと考えられるが、内容的には取り組みやすかったであろう。
第3問	太陽系の形成	10点	昨年度同様、会話を通じて知識を問う問題であった。会話の中で太陽系の形成に関して読み取る内容であったが、極めて基本的であり、取り組みやすかったであろう。